

日越外交関係樹立45周年記念国際シンポジウム開会挨拶

「日越関係の発展：歴史と展望」（平成30年9月21日）

- ・ グエン・スアン・タン・ホーチミン国家政治学院院長,
- ・ 講演者の皆様,
- ・ ご列席の皆様,

はじめに

●本シンポジウム開催にあたり、シンポジウム実現のためにご尽力いただいた全て関係者に対し、また、御多忙の中、講演いただく皆様に対して、日本政府を代表し、心から感謝を申し上げます。

●45年前の1973年9月21日、日本とベトナム間に外交関係が樹立されました。しかしながら、本格的な日越関係改善は、「冷戦終了」を待つ必要がありました。日本の対越ODAの再開は、1992年、ベトナムのアセアン加盟と米国との国交樹立は1995年です。それから、わずか四半世紀の間に、ベトナムは飛躍的に発展し、国際的な存在感も大きくなりました。日越関係も、「広範な戦略

的パートナーシップ」の下，すべての分野で緊密化しています。

本2018年，日越両国で，180を超える記念事業が開催されていますが，正に9月21日，本シンポジウムにおいて「日越関係の過去を振り返り，将来を展望できる」ことを大変光栄に思います。

●本日は，①二つの感謝，②日越関係の現状と基本認識，③懸念事項の3項目について，話をさせていただきます。

1 まず，ベトナムに対する二つの感謝です。

●一つ目の感謝は，2005年，日本，ドイツ，インド，ブラジルの4か国（いわゆるG4）が，「国連安保理改革に関する枠組み決議案」を提出し，G4の常任理事国入りに向けて運動を強化した時のことです。中国は，日本の常任理事国入りを阻止すべく，世界中で反日キャンペーンを展開し，アセアン諸国に対しても熾烈な働きかけを行いました。中国国内では，暴力を伴った反日デモも起こしました。このような状況下，当初は日本支持を明言していたASEAN諸国内に，動揺が生まれ，明言を避ける国が出てきました。最後まで日本の常任理事国入りを支持し続けた国は，シンガポールと

ベトナムでした。当時、町村外務大臣のハノイ出張に同行していた私は、中国の脅しに屈しないベトナムの姿勢に感銘を受けました。

●二つ目の感謝は、2010年、中国の漁船が日本の海上保安庁の船に衝突し、中国人船長を逮捕した際、中国はレアアースの対日輸出を全面禁止しました。その直後にハノイで開催された、日越首脳会談で、当時のグエン・タン・ズン首相は菅総理に対し、「越国内のレアアースについて日越共同開発提案」がありました。結局、その後レアアースの価格が下がったこともあり、共同開発は実現しなかったものの、当時、首脳会談に同席していた全ての日本人は、「深い感謝の気持ち」を持ちました。幸い、私もその一員でした。

●2011年、日本政府は、ベトナムのWTO協定上の「市場経済地位」を認定しました。「認定」は、経済資料を基に公正に判断したものです。ベトナムに対する先に述べた「感謝の念」が共有されており、日本政府内で反対の声は一切ありませんでした。

2 次に日越関係の現状と基本認識について述べます。

●日越両国は多くの「戦略的利益」を共有しています。日本は、「ベトナムの持続的経済発展」、「安全保障能力向上」は、地域全体の安定と繁栄にとって特に重要との基本認識に立ち、ベトナムとの連携を強化しようとしています。国際秩序が大きな変動期を迎えつつある中、日越両国の連携強化は益々重要と考えます。このような観点から、日本はベトナムの行政改革、人材育成、経済開発努力を出来るだけ支えたい考えです。

●この数年、指導者間交流が絶え間なく行われ、指導者間の信頼関係が深まっていることも、とても重要です。特にこの一年半の間に両国の指導者交流は間断なく行われ、指導者間の相互信頼は格段と強化されています（天皇皇后両陛下のベトナム御訪問、安倍総理・フック首相の相互訪問、安倍総理のダナンAPEC首脳会議出席、ホイアン訪問、クアン国家主席夫妻の国賓訪日等）。10月、「日越メコン首脳会議」が東京で開催され、フック首相の出席が期待されます。昨年APECダナン首脳会議において、日越が共同議長として「TPP」をまとめたことも日越協力の大きな成果でした。

来年4月に退位される天皇陛下が昨年2月にベトナムを訪問され

たこと、また今年5月にクアン国家主席ご夫妻を国賓としてお迎えしたことは、日本の「ベトナム重視の気持ち」を象徴しています。

●経済分野の協力は、ますます強くなっています。この数年、日本企業のベトナムへの関心は特に高まっており、投資件数、進出企業数は着実に増加しています。輸出品の製造拠点というよりも、「ベトナムの内需」を念頭に置いた投資が増加しています。2017年の日本の対越直接投資は、認可ベースで91億米ドルと史上最高額となり、2018年前期も65億米ドルを記録し、国別で一位でした。ベトナム進出日系企業数は三千百社を超え、過去4年間に四割増加しました。ベトナムの日本商工会議所に加盟する日本企業数は、今年6月時点で1,788社となり、タイの商工会議所を抜いて東南アジアで1位です。

●日本は、長年にわたり、ベトナムの法整備支援、橋、港、空港、高速道路等の質の高いインフラ整備、人材育成等に重点を置いて協力を進めてきましたが、引き続き、協力を継続する意向です。

●日越の大学間交流、ベトナムにおける日本語学習者の増加に加え、ベトナムの公教育における学校給食、音楽教育、体育教育において

も新たな協力が始まっています。象徴的協力案件である「日越大学」は、先日三期生の入学式を終えたばかりですが、更なる躍進が期待されます。サッカーを含めスポーツ分野の協力も東京オリンピック・パラリンピックを念頭に強化する意向です。

3 三点目として二つの懸念事項を述べます。

●一つは、ベトナムの国際信用にかかわる問題です。 公的債務削減は重要とは言え、全ての重要事項について決定手続きが遅れ、二年近くの間、新たな大型インフラプロジェクト工事は開始されていません。また、ODA定義など国際基準を無視した動き、約束を反故にする動きが目立ちます。ベトナムの信用にかかわる問題であり、心配しています。

●もう一つの懸念は、国民レベルの交流に関してです。

日本に居住するベトナムの方は、この6年で6倍増の26万人となり、昨年、日本に住む外国人の中で中国、韓国に次いで国別第3位となりました。「少子高齢化と労働力不足」に直面する日本社会をベトナムの若者が支えています。

その一方、日本におけるベトナム人の犯罪検挙数は、中国人を抜

いて、3年前に一位になりました。夢をもって訪日するベトナム人留学生、技能実習生に多額の借金を負わせるベトナムの「悪徳送り出し機関」と日本の「悪徳日本語学校、受け入れ企業」が、存在しています。このままでは、若者の人生を台無しにすることに加え、「日本におけるベトナム」、「ベトナムにおける日本」のイメージが大きく傷つく恐れがあります。昨年3月以降、大使館は対応を強化していますが、日越双方の一層の協力が必要となっています。

●私は、2016年11月にベトナムに着任して以来、北部・中部・南部の多くの省・都市を訪問してまいりました。行く先々で、ベトナムの発展のエネルギーを実感すると同時に、日越関係を更に発展させたいと奮闘している方々の思いを肌で感じる機会が多くありました。世界有数の親日国であり、発展のエネルギーに満ち満ちたこの時代のベトナムに勤務できることは、非常に幸運なことと考えています。

●最後に、皆様の御健勝、日越関係のより一層の発展を心から祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。(了)